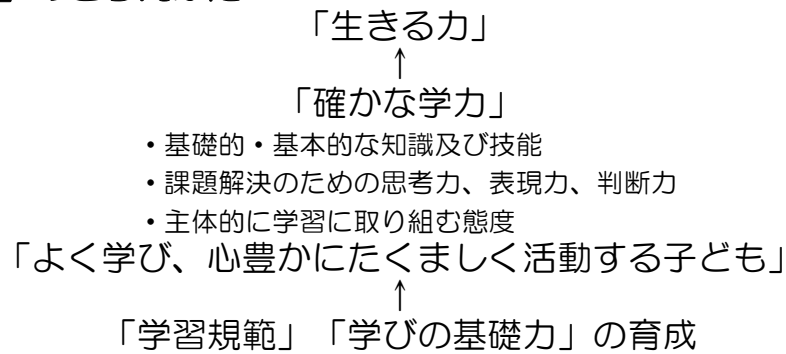


平成29年度 比叡平小学校 学力向上策

1. 本校の「学力」のとらえかた



2. 本校の学力向上にかかわる課題

<これまでの取り組みから>

- ◎学び合い（意見交流）を中心とした授業改善の取組の結果、思考力や表現力にも高まってきている。ノート指導の徹底も思考力や表現力が高まったことも要因の一つである。今後は、学び合いの基盤となる支持的な学級づくりを行うの中でさらに授業改善に取り組んでいくことが課題である。
- ◎基礎基本の徹底と学力向上のため、個別指導として、「だいらっこタイム（5校時前の帯タイム）」「夏休みだいらっこクラブ」「放課後だいらっこタイム」に取り組んでおり成果が上がっており、今後も継続した取組が必要である。
- ◎「聴き名人」「話し名人」をめあてにし、各教科、道徳、特別活動等を通して、常に意識づけを行っている。さらに人権意識を高めていく中で「認め合い、支え合い、学び合う」学習を重視した授業を充実させる必要がある。

<全国学力・学習状況調査の結果から>

- ◎国語・算数のどの教科も知識と活用に関する問題の正答率は高く、基礎的・基本的な力については、これまでの取り組みの成果が表れ、着実に力をつけている。表現力については、自分なりの言葉で思いや考えを書いたり、話したりすることはできるようになってきているので、目的や意図に依拠して的確に思いや考えを書いたり、話したりする表現力をさらに育てていく。

3. 指導目標（課題へのアプローチ）

- ①道徳の時間を中心に全教育活動を通して、相手を思いやる心情を育てていく中で、学び合いの基盤となる支持的な学級づくりに取り組み、「話す・聞く」力の充実を図る。
 - ・学年の発達段階に応じた「目指す子ども像」をもとに、新しい「比叡平小学校 聴き名人」を作成するとともに、日常的に「聴く力」を育てる取組を考え、実践する。
 - ・作成した「比叡平小学校 聴き名人」をもとに、教師と児童がそれぞれ評価を行う。
- ②学び合い（意見交流）等の言語活動の充実
 - ・交流の場の設定し、話す・聞くことの言語活動を授業に多く取り入れ、話す・聞く能力を育てる。
 - ・書く作業の日常化し、ノート活用の充実を、書く作業の重要性を意識させる。
 - ・学習のねらいを掲げ、まとめやふりかえりを書かせ、自分の思いや考えを整理させ、思考力を高めるとともに、話す・聞くことの言語活動にもつなげていく。
- ③基礎基本の徹底と学力向上アプローチ事業(理科)を中心とした授業改善
 - ・教科の時間だけでなく「だいらっこタイム」（火・木）と「放課後だいらっこタイム」（火・木 4年生以上）で、計算や漢字の練習などを繰り返す。
 - ・互いに学び合う学習を進め、課題をより良く解決しようとする意欲および資質能力を育てる。
 - ・保幼小中の連携を図る中で言語活動を充実させ、コミュニケーション能力を育成する。
 - ・法則や公式に行きつくまでの学習過程を大切に授業展開で、論理的な思考力の向上に迫る。
 - ・学習の見通しを持たせながら、課題に迫る資料活用や情報選択の力を育成する。
- ④「生活・学習ふり返しカード」「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の定着と充実
 - ・「生活・学習ふり返しカード」を学期に一回行って、家庭生活をふり返し、さらなる定着を図る。
 - ・「家庭学習の手引き」をもとに、2年生から自主学習ノートをつくり、家庭学習の充実を図る。